

車イスバスケット選手 村山涼さんを村も応援



村の中学校で講演を行ったこともある村山さん(左)。これからも目標に向けて頑張ってください

「第46回日本車いすバスケットボール選手権大会」に出場する村山涼さん(深谷)に、4月4日、村が激励金を贈りました。村山さんは、県内を拠点とする「TEAM EARTH(チーム アース)」で主力選手として活躍する一方、東北選抜にも名を連ね、練習に取り組んでいます。

村役場で激励金を贈られた村山さんは、応援に感謝を述べ、「2年後の東京パラリンピック、さらにはパリで開催される6年後のパラリンピックへの出場も目指していきたい」と目標を語りました。

仮設直売所「なごみ」閉店 感謝セールで歴史に幕

仮設直売所「なごみ」が、3月24日に閉店セレモニーを開催。合わせて3月末の閉店日まで、感謝セールを開催しました。「なごみ」は、平成24年12月に松川第一応急仮設住宅の敷地内にオープンし、仮設住民の買い物場所としてはもちろん、村民が避難先で栽培した野菜なども取り扱い、親しまれました。5年3か月間ののべ利用者数は約9万5千人、総売り上げ額は約8千9百万円。飯館村直売所連絡協議会の佐藤八郎会長(深谷)があいさつし、利用者に感謝を伝えました。



日頃直売所を利用していた皆さんが訪れ、セレモニーの後は買い物をしながら交流していました

長野県小海町から 美味しい凍み餅が里帰り



大雷神社の桜の下、砂糖醤油で仕上げた小海町の凍み餅を味わいます。手前3人の右端が菅野さん

4月12日、飯樋地区の大雷神社に大型バスが到着しました。バスには、平成24年から交流する長野県小海町の皆さんと菅野榮子さん(佐須)ら村民が同乗し、再会を喜び合っていました。小海町の皆さんは、菅野さんらから凍み餅づくりを教わり、地元の特産品に育てようと活動していて、毎年、菅野さんが避難していた伊達東応急仮設住宅に、凍み餅を届けていました。菅野さんは、「大変なことばかりだったけど、こんなにありがたいこともある」と交流の喜びをかみしめていました。

地域の協力で感謝をこめて 飯野支所の閉所式

村役場の飯野支所が、3月末で閉所となりました。全村避難に伴い、役場機能を「飯野出張所(当時)」に移したのは、平成23年の6月。以来、地区の皆さんが活用していた福島市の建物をお借りし、避難指示解除後もさらに1年間、支所を置かせていただきました。村は、3月30日に閉所式を開き、福島市飯野支所の皆さんや地域住民の皆さんに、これまでの感謝を伝えました。また、管理人を務めた飯野町在住の朝倉利雄さん・洋子さん夫妻に、感謝の花束を贈りました。



機能移転直後から管理人となり親身に職員を支えてくださった朝倉さん夫妻に菅野村長から花束を

プロ野球観戦ツアー 特別な体験に感激！



試合前、子ども達の元へ足を運んでくださった梨田監督(前列中央)から、タオルのプレゼント

4月14日、東北楽天ゴールデンイーグルスの招待によるプロ野球観戦ツアーに、村の子ども達が参加しました。観戦したのは、宮城県仙台市の楽天生命パークスタジアムで行われた対西武ライオンズ戦です。試合開始前の先発メンバー紹介では、村の子ども達が、各選手の旗を持ち、オーロラビジョン(球場内の大画面)に登場。さらに、梨田昌孝監督から、監督名入りスポーツタオル、選手のサインボールをプレゼントされるなど、サプライズ満載の大きな励ましをいただきました。

桜でつながる支援に感謝 東京都調布市で交流

4月1日、東京都調布市の仙川駅前で行われた「夜桜チャリティコンサート」に、飯館中学校の卒業生、神代優太さん(大久保・外内)と佐藤安美さん(八木沢・芦原)が、村職員と共に参加しました。このコンサートでは毎年来場者に被災地支援を呼びかけていて、飯館村民も桜の苗木の寄贈などを通して応援をいただいています。神代さんと佐藤さんは感謝を伝え「皆さんに来てもらえるよう村を復興させたい」「震災に遭ったことで見つけた夢がある」とそれぞれの思いを語りました。



仙川駅のシンボルの桜の樹の下で、多くの来場者を前に村の現状と支援への感謝を伝えました

※生活支援係が移転した松川事務所の情報はP18をご覧ください